夢甲斐塾11月度運営会議

平成26年11月18日（火）19：30～　花水木

参加者：入倉塾頭、矢島（2期）、厚芝（5期）、柴田（7期）、丸山（9期）、萩原、中山（10期）、北村、山崎（12期）、加藤、上松（13期）、佐藤、松田、櫻本、小林（14期）

1. チェックイン　省略
2. 11月例会、市民フェスタ振り返り、報告

佐藤（14期）・・・11月例会へのご参加ありがとうございました。14期初の宿泊例会の開催で、塾長講話もキャンプファイアーという演出を凝らした例会を開催させて頂きました。多くの先輩塾生の参加も頂き嬉しかったのですが、14期内で計画、準備不足を露呈するカタチとなり、多くの先輩にご迷惑を掛けてしまった。今後開く14期のミーティングでしっかり反省し、今後につなげていきたい。

また、11月15・16日の市民フェスタに関しても準備不足のままの開催となってしまった。「山梨ブランド発掘」を主の活動をしている14期にとっては、多くの人が集まる場で情報を収集できる絶好の場であったにも関わらず、14期の人員も揃わず、売り上げはさほど重視していなかったにも関わらず、売ることに専念し、情報を得ることは全くできなかった。

厚芝・・・地域のリーダーを育成するという夢甲斐塾生である以上、まわりのブースの片づけなどに積極的に参加する姿勢が欲しかったが、まったくそれがなかった。もし片付け等を申し出ても、他の参加者は遠慮するかもしれないが、声を掛けるくらいの積極性が欲しかった。今後その点を生かしていってもらいたい。

３、12月例会、クリスマス会について

小林（14期）・・・タイムスケジュールの説明（5分間）

入倉・・・食事の際の発表はお酒も入っているため、難しい。検討をお願いしたい。

柴田・・・11月例会の終わりに、14期としての計画書を出してもらいたいという話をされていた。クリスマス会は14期としっかり話し合いたいという話をされていた。そのような設えにしたほうがいいのではないか？スケジュールの再考をお願いしたい。

中山・・・食事をせず、塾長の話を聞きたいという人への時間の配慮をお願いしたい。

中山・・・クリスマス会はOB向けなのか？14期のものなのか？塾としての位置づけは？

厚芝・・・あくまでも塾長がプライベートで来ており、当期の活動状況を聞いたり、懇親を深めたいとしている場であるので、14期中心の開催と考えていい。

入倉・・・例会とは別のものと考えていい。現場主義として萌木の村の職員のサービスなど学ぶべきことがいっぱいある。そこを見てもらいたい。

厚芝・・・舩木さんは本当に苦労人。でも、ここを開拓してきた思いを現場に行って学んでもらいたい。

萩原・・・14期と懇親を深めることを重視したタイムスケジュールに検討してみてください。

萩原・・・12月例会の計画は？

佐藤・・・12月例会は計画していません。

入倉・・・例会は毎月開催となっている。やらないなら、やらないなりの理由をはっきりさせてほしい。

山崎・・・昨年は13期が行った事業の反省会を例会としてやったことがある。そういったことを行ってみてもいいのではないか？

入倉・・・形式ばった例会でなくてもいい。反省会だったり、公開例会までの計画を立てるという会にしてもいい。そういった例会を計画をして欲しい。

櫻本（14期）・・・11月例会で塾長から山梨ブランドの定義づけ、5月例会まで計画などを提出することを求められている。クリスマス会までに数回集まり、事業の反省会なども行う予定です。それを例会として開催したいと思っている。

入倉・・・5月例会は2000人という壮大な計画となっている。スケジュール＋どのようにアプローチしていくのかもしっかり計画してもらいたい。1月からスタートできるように。

松田（14期）・・・5月例会を成功させるためには、先輩塾生を巻き込んだプランを立てないといけない。しっかりとした計画を練っていきたい。

櫻本・・・12月例会として反省会を開催するのであれば、クローズにしたい。しかし、先輩塾生が来ていただけるのであれば、ぜひ来ていただいてアドバイス頂きたい。

入倉・・・ここまでの事業を行ってみて、14期生から感想を言って頂きたい。一人1分程度で。

櫻本・・・準備不足。こなすのに精いっぱい。まわりを見る余裕がなかった。リーダーとメンバーの意思疎通が不足していた。それを反省していきたい。フェスタの売り上げは80,050円でした。

小林・・・いろいろな人に助けてもらった。辛かったけど、やってきてよかった。市民フェスタでいろいろな人と触れえて楽しかった。

松田・・・準備不足。もっと余裕のある計画を立てていきたい。

柴田・・・11月例会で気づいた点が2点。塾長から話を聞く態度と、塾長の見送りがなかった。今後十分に気をつけてもらいたい。

1. 情報発信の方法、ルールについて。

萩原・・・先週の金曜日に夢甲斐フェスタ等案内状を夢甲斐塾生244名に送った。今一度夢甲斐塾内の情報発信のルールを明確にしたいと思って議題としてあげました。

中山・・・現在は発信するツールはメーリングリストのみだが、私的な利用は見られない。

萩原・・・ホームページやフェイスブックページ等を使って情報発信を行っていきたい。

中山・・・現在名簿を作っているが、夢甲斐塾と関わりを持ちたくないという人まで載せる必要があるのか？名簿の登録だったり、メーリングリストの登録の定義をはっきりして欲しい。

矢島・・・会費を払っている人のみを登録するようにすればいい。

中山・・・先日の例会でも塾長の話を聞き、食事をしたにも関わらず、会費を払っていない人も多々いる。解せない。

中山・・・従来のメーリングリストとは別に、しっかり会費を払っている人のみのメーリングリストも作成している。

入倉・・・次回の運営会議には会費の払う、払っていない人のリストを作成してきてください。

メーリングリスト、ホームページ、フェイスブックページと上手に使い分けをしていくようにしましょう。

５、今後の夢甲斐塾について

11月2日の塾長との話し合いをうけての塾頭からの提案

入倉・・・入倉試案の説明

萩原・・・今日結論を出すのは難しいので、時間までみなさんから意見を聞くことでよろしいでしょうか？

入倉・・・この決定事項はクリスマス会の時には塾長に報告をしたい。

矢島・・・募集を考えると、年内中の決定が必要。そのための会議を持つべきである。一つ質問だが、なぜ16ヶ月の研修期間なのか？

入倉・・・15ヶ月とも考えたが、2か月に一度来られる塾長のスケジュールに合わせた形となっている。15ヶ月でもいいと思っている。

柴田・・・2年という話も出ていたが・・・。青年塾は1年6ヶ月になっているが、それは遠方から参加しているという地理的な問題のためそうなっている。しかし、夢甲斐塾は2年でも大丈夫であろうと。

厚芝・・・塾長が言っていたのは、カタチから入るのも大事だが、それ以上に、魂というかハートの部分も大事にしてほしい。

萩原・・・決める期限を決めたいと思うのだが。

入倉・・・詳細は2015年2月。方向性は年内で決めましょう。次回の運営会議までには方向性は決めたい。それまでの間に何回か集まりたい。2回程度。

萩原・・・では、今日は意見を出すだけ出すということでいきましょう。21時30分まで。では、その前に、最後の連絡事項の夢甲斐フェスタについて発表をお願いします。

６、その他連絡事項

・夢甲斐フェスタ

柴田実行委員長・・・開催概要とタイムスケジュールについての発表。

今回は古い期の人に来て頂き、交流して頂けるような設えにしたい。

入倉・・・役割分担は大丈夫か？

柴田・・・大丈夫です。

入倉・・・出席者名簿を作るのか？

柴田・・・その予定です。

入倉・・・動員は大丈夫か？

柴田・・・チラシ等多く配布している。今一度声掛けをお願いしたい。

萩原・・・その他連絡事項は？

中山・・・明後日にジョブコラを開催する。多くの塾生に来て頂きたい。

次回は１２月１０日を予定している。発表者は厚芝さんと14期の小林良平さんです。

今後の夢甲斐塾について

入倉・・・11月2日の塾長との打ち合わせの時の感想をお願いします。

（要点のみ記述）

柴田・・・塾長はとてもアグレッシブ。守りに入っていない。塾の方針だったり、研修期間だったり、抜本的な見直しが必要な時期にきている。個人的には1年目は塾で決めた研修カリキュラムを徹底的にやる。2年目はフリーな活動にするなどにしてもいいのではないかと思っている。

萩原・・・1年という研修期間は短い。出発する時の状態が現在では「この人たちに任せれば山梨は大丈夫」という状態まで至っていない。好きなことだけをやるだけではダメ。研修期間は2年で、1年目は徹底的に山梨を知る。2年目は山梨を変えていくためのチームを編成し、戦略を練るなどするべき。

矢島・・・研修期間を延ばすことは賛成。しかし、出る杭になる以上、山梨だけにとどまっていてはいけない。「相手は世界」位の気概であって欲しい。

丸山・・・出発する時に「さあやるぞ」とモチベーションが上がる運営を期待したい。現状では出発する時に「もうこりごり」と思っている人もいる。

矢島・・・言い忘れたけど、2期で活動した時は一年が本当にあっという間で悔しかった。個性的なメンバーとともに、喧嘩寸前まで言い合いもしたけど、みんな「出る杭になろう」という気概があった。でも、今はそれがない。もう一度夢甲斐塾をその方向性にもっていきたい。

厚芝・・・精神的に鍛える塾にしたい。14期に伝えたいことは、研修期間中は失敗はいくらしてもいいと思っている。失敗の中から反省し、そこから学んでもらいたい。

中山・・・出る杭とか志とは未だによくわからないところがある。研修期間は人間関係を構築することに一生懸命になって欲しい。

山崎・・・夢甲斐塾に入ってきた目的が不明確な人がいる。もっと自分自身が夢甲斐塾に何をするために来たのかをしっかりと認識してもらいたい。

北村・・・出発の時には「やっと終わった」と疲れてしまった。人間関係かも？

加藤・・・13期はやりたいことだけをやってしまった感がある。もっと先輩塾生とかかわるべきだった。こういった研修期間案はいい。

上松・・・13期は再出発となったが、今一度しっかりとした活動を行っていく。

佐藤・・・まずは14期の中を立て直すことを一生懸命やりたい。クリスマス会に向けた基本計画を早く立てたい。

櫻本・・・研修期間が2年になることで、走り切れるかが不安。「出る杭」の定義について話し合う場があってもいいのではないか？

小林・・・入る前と入ってからのギャップがある。

松田・・・先輩とかかわることができる研修期間が重なることは賛成。人に教えることから学ぶこともある。その機会が生まれることに期待したい。

次回の運営会議は12月16日（火）19:30～　花水木

夢甲斐塾の方向性を考える会は11月25日（火）、12月4日（木）ともに19:30～　花水木

21:50　終了

以上、議事録作成　上松裕之（13期）